

**磐田市まち・ひと・しごと創生総合戦略
取組結果報告書 【令和元年度】**

令和2年9月

目 次

1	総合戦略について	1
2	令和元年度の達成状況の概要	1
3	総合戦略体系図	2
4	具体的な取組みの実績	
	みんなが活躍できるまちづくり	3
	移住・定住したくなるまちづくり	8
	若い世代が家族を増やしたくなるまちづくり	12
	子どもたちが健やかに成長するまちづくり	15
	安全・安心と住みよさを実感できるまちづくり	18
5	数値目標及び重要業績評価指標の達成状況	22

1 総合戦略について

「磐田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、地方創生に関する本市の目標や施策の基本的な方向、また、施策を総合的かつ計画的に実施するために必要な取組みを定めたものであり、平成29年度からスタートした「第2次磐田市総合計画」の分野横断的な下位計画と位置付け、計画相互の整合性を図りながら推進していく必要があります。

そのため、現戦略の計画期間は令和元年度を最終年度としていましたが、令和3年度までを対象期間とする総合計画前期基本計画と合わせ、計画期間を2年間延長しました。

今後も、変化する社会経済情勢や市民ニーズへの確かつ柔軟に、スピード感を持って対応ができるよう、必要に応じて取組みの見直しを行っていきます。

2 令和元年度の達成状況の概要

「磐田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、5つの数値目標に加え、23の重要業績評価指標(KPI)を設定し、各施策の効果を客観的に検証できるようにしています。令和元年度は計画期間の延長に伴い、これまでに目標値を達成した、または、達成が見込まれる指標については、新たな目標値を設定しました。

令和元年度の実績値を見ると、全体的には、概ね目標値(令和3年度)に向けて順調に推移しておりますが、令和元年12月頃に発生し、その後世界的に感染が拡大している新型コロナウイルス感染症は未だ終息が見えず、予断を許さない状況にあると考えています。

今後も、新型コロナウイルス感染症に対して、適切かつ迅速な対応をとりながら、本戦略に位置付けられた取組みを着実に推進していきます。

【達成状況】

項目	基準値	R1 実績値	R3目標値
みんなが活躍できるまちづくり			
新規雇用者数（累計）	—	1,960人 (H27～R1)	2,700人 (改定前 1,500人)
移住・定住したくなるまちづくり			
転入者数（累計）	0人	1,190人超過	1,500人超過 (改訂前 350人超過)
若い世代が家族を増やしたくなるまちづくり			
合計特殊出生率	1.56	1.46	1.60
子どもたちが健やかに成長するまちづくり			
学校に対する満足度	—	88.6%	90.0%
安全・安心と住みよさを実感できるまちづくり			
「磐田市が住みやすい」と答える市民の割合	—	87.9% (H27)	90.0%以上

3 総合戦略体系図

基本目標	数値目標	施策	主な取組み
みんなが活躍できるまちづくり	新規雇用者数 2,700人 (7年間累計)	1-1 中小企業等の競争力の強化	① ビジネスチャンスの創出 ② 地域企業との情報共有
		1-2 企業誘致の推進と創業・起業支援	① 企業誘致の推進 ② 創業・起業支援の実施
		1-3 元気な農林水産業の育成	① 企業の農業参入への支援 ② 安定した生産基盤の確立 ③ 地域資源を活かした魅力の発信
		1-4 産業を担う人材の育成・就労の支援	① 求職者等就労支援体制の構築 ② 若者・女性への就労支援 ③ 障害者・高齢者への就労支援 ④ 創業・起業支援の実施【再掲】
移住・定住したくなるまちづくり	転入者数 1,500人超過 (7年間累計)	2-1 「移住定住」と「UIJターン」の促進	① 移住・定住の情報発信と戦略の策定 ② UIJターン就職の促進 ③ 良好な住環境の整備 ④ 広域連携による移住・定住施策等の推進
		2-2 磐田のブランド力の強化とシティプロモーションの推進	① シティプロモーションの推進 ② イメージキャラクターの活用推進 ③ スポーツを活用したまちづくり ④ 文化を活用したまちづくり ⑤ ふるさと納税制度の活用推進
		2-3 新たな交流・集客の推進	① 観光・交流の推進 ② まちとお店のにぎわいづくりの推進
		3-1 仕事と子育ての両立支援	① 幼稚園・保育園の保育環境の整備 ② 子育て環境の整備・充実 ③ ワークライフバランスの定着・促進
		3-2 結婚・妊娠・出産及び子どもの成長・発達支援の充実	① 男女の出会いの機会の創出 ② 妊娠から育児までの継続した支援 ③ 子育て相談体制等の充実 ④ 児童発達支援ネットワークの構築
子どもたちが健やかに成長するまちづくり	学校に対する満足度(児童生徒・保護者) 90%	4-1 特色ある教育の推進	① 学府一校等新たな学校づくりの推進 ② 少人数教育等の推進 ③ 子どもを健やかに育む地域づくり
		4-2 ふるさとへの誇りと愛情を持った子どもの育成	① 体験を重視する教育の推進 ② 高校や大学との連携の推進
安全・安心と住みよさを実感できるまちづくり	「磐田市が住みやすい」と答える市民の割合 90%以上	5-1 安全で安心なまちづくり	① 地域の防災力・消防力の強化 ② 津波対策の推進 ③ 建築物などの耐震化の促進 ④ 安全なまちづくりの推進
		5-2 だれもが暮らしやすいまちづくり	① 高齢者・障害者にやさしいまちづくり ② 生涯にわたる健康づくりの推進 ③ 地域に必要な生活交通の確保 ④ 環境にやさしいライフスタイルの推進
		5-3 地域コミュニティの活性化	① 自治会活動等への支援 ② 地域の拠点づくりの推進

4 具体的な取組みの実績

基本目標 1 みんなが活躍できるまちづくり

【数値目標】

市独自調査による新規雇用者数

基準値	実績値(累計)					目標値
H26	H27 (H27)	H28 (H27~H28)	H29 (H27~H29)	H30 (H27~H30)	R1 (H27~R1)	R3 (H27~R3)
—	356人	698人	1,072人	1,513人	1,960人	2,700人 (改定前 1,500人)

【参考】

市内法人数

H27	H28	H29	H30	R1
3,622	3,620	3,634	3,648	3,662

令和元年度実施状況・評価

市内中小企業の競争力強化を図るため、専門家との合同企業訪問を実施したほか、販路開拓支援として姉妹都市であるマウンテンビュー市やベトナムを訪問し、現地企業とのビジネスマッチングの機会を提供しました。

また、市内中小企業の技術など経営資源の持続的発展と雇用維持のため、中小企業の事業承継を支援しました。

そのほか、立地企業の用地取得費及び雇用増に対する支援や立地企業が負担する固定資産税及び都市計画税に対する支援の実施など、企業誘致や立地相談を継続しました。

農林水産分野では、次世代農業を行う企業の立地が決定したほか、耕作放棄地の解消や農地の集積による有効活用を進めました。

数値目標である新規雇用者数は着実に増加していますが、今後は新型コロナウイルス感染症の影響は避けられない状況にあることから、企業支援・就労支援を継続して取り組む必要があります。

今後の課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響で雇用や設備投資などの企業活動が縮小しているため、スピード感をもった支援を実施する必要がある。
- 商談や企業向けセミナー、就職フェアの開催など、地域産業活性化のための取組みを、従来通り進めることが難しい状況にあるため、IT等を活用した新たな取組方法を検討する必要がある。

施策 1 - 1 中小企業等の競争力の強化

地域の経済と雇用を支える中小企業等の活性化を図るため、事業承継や市内企業の競争力を強化する取組みを支援します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R1	目標値 R3
産業展示会等出展支援事業による商談成立件数 (補助金交付事業者への追跡調査による)	15 件 (H26)	累計 157 件 (H27~R1)	累計 230 件 (改定前 100 件)
中小企業の製造品出荷額等 (経済産業省公表資料による)	4,874 億円 (H25)	4,798 億円 (H29)	4,900 億円 以上

具体的な取組み

産業振興フェア in いわたの開催	<p>■既存産業の基盤強化や、新規事業の展開に向けた取組みの支援、新たな基幹産業の創出を図るため、「産業振興フェア in いわた」を開催した。 (参加団体・企業 180 社、来場者数:5,000 人)</p>
「おせっかい」事業の実施	<p>■事業者に対して、専門家との合同企業訪問を実施し、市内外の事業者等とのマッチングを行うなど、課題解決に向けた「おせっかい」事業を実施した。 (マッチングの成立事例:42 件)</p>
新規 食品バイヤーとの商談会 in 磐田の開催	<p>■県内外での販路開拓を目指す市内中小企業等へ、食品バイヤーとの商談機会を提供した。 (参加企業数:39 社)</p>
新規 海外への販路開拓支援	<p>■姉妹都市マウンテンビュー市の物産展に出店し、米国市場の販路開拓に意欲的な事業者へマーケティングの調査及びビジネスマッチングの機会を提供した。 (市内参加企業:2 社、マッチング件数 4 件)</p> <p>■ベトナムにおいて、市内中小企業と現地企業とのビジネスマッチングを実施した。 (市内参加企業:5 社、マッチング件数 4 社)</p>
中小企業の事業承継の支援	<p>■市内中小企業等の事業承継を支援するため事業承継診断を行い、相談機関への橋渡しを実施した。 (事業承継診断 53 社、相談機関へのつなぎ 9 社)</p>
「がんばる企業応援団」の実施	<p>■職員が市内企業を訪問し、有益な情報を提供するとともに、ニーズ及び実態を調査する「がんばる企業応援団」を実施した。 (対象企業数:187 社 訪問職員数:126 名) また、登録する企業に対する情報提供や企業同士の交流・情報交換の場として交流会を初めて開催した。 (参加企業数:21 社)</p>

施策 1-2 企業誘致の推進と創業・起業支援

企業誘致や新たな工業用地を確保するとともに、創業・起業への支援を行うことで、企業立地や創業・起業のしやすい環境を整備します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R1	目標値 R3
新たな企業立地件数(1,000 m ² 以上) ※太陽光発電事業を除く (企業立地動向調査による)	—	累計 30 件 (H27~R1)	累計 38 件 (改定前 20 件)
創業支援等事業計画に基づく新たな創業・起業 件数 (市内の関係機関への調査による)	—	93 件/年	130 件/年

具体的な取組み

企業誘致の推進	<p>■企業誘致活動や立地相談により、6社 約 12.0ha の誘致を行うことが出来た。 (製造業 6社)</p>
立地企業に対する支援	<p>■市内への企業誘致を促進し、新規雇用創出を図るため、立地企業に対して補助金を交付した。 (産業立地促進事業費補助金 件数:7件) (産業立地奨励補助金 件数:8件)</p>
女性起業家の育成支援	<p>■起業を目指す女性を対象に、女性起業家育成講座を開催するとともに、講座卒業生の活動を応援するため、事業PRを兼ねた「MONO づくりワークショップ」を開催した。 (女性起業家育成講座 参加者:9人) (MONO づくりワークショップ 来場者:延べ 542人)</p>
起業の促進及びサポート	<p>■コワーキングスペースを拠点に、専門家による創業相談などにより起業をサポートした。 (創業相談窓口 相談者数:延べ 155人) (コワーキングスペース 新規登録者数:97人 利用者数:延べ 3,149人)</p> <p>■創業するために必要となる設備資金及び運転資金を借り受けた中小企業等に対して利子補給(開業パワーアップ支援資金利子補給金制度)を実施した。 (8件 116,100円(新規5件、継続3件))</p> <p>■市内で起業した方を小・中学校へ派遣し、起業家精神を培う授業を実施した。 (実施校数:5校 受講者数:418人、講師:延べ 12人)</p>

産業立地促進事業費補助金・・・立地企業の用地取得費及び雇用増に対する補助金

産業立地奨励補助金・・・立地企業が負担する固定資産税及び都市計画税相当額に対する補助金

施策 1 - 3 元気な農林水産業の育成

農林水産業の事業化や商品化に向けた支援体制を整え、生産基盤の強化や資源の有効活用を行い、安定した経営を実現します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R1	目標値 R3
異業種からの新規農業参入企業数 (新たに農地の権利を取得した企業数)	8件 (H26)	累計 18 件 (H26~R1)	累計 20 件 (改定前 13 件)
農業委員会調査による新規就農者数 (45 歳未満)	5人 (H26)	累計 28 人 (H26~R1)	累計 34 人 (改定前 30 人)

具体的な取組み

次世代型農業を行う企業の誘致	<ul style="list-style-type: none"> ■ 農業を核とした新たな地域基幹産業を創出する次世代農業を行う 1 社(完全閉鎖型の植物工場)の立地が決定した。
就農の促進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東京で開催する県主催の移住定住セミナーにて、磐田市への就農を支援する事業(農業経営者育成事業)のPRを行った。(参加者:14 組)
荒廃農地再生の支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 荒廃農地の有効利用を促進するため、農地再生に取り組む農業者を支援した。(寺谷地区 解消面積:37a 作目:白ネギ、ゴボウ)
農地の有効活用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 県からの茶園集積推進事業費補助金を活用し、茶園の集積に取り組んだ。(富丘地区等 集積面積:372a) ■ 規模縮小や離農により所有者へ返還された農地を新規就農者等に対して再配分し、農地の有効利用を推進した。(再配分農地面積:約 30ha)
新規 地元農産物の認知度向上	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内高校生と事業者の協働により、地元農産物を使った新しい商品の開発を行い、各種イベント等で販売した。(みんなで軽トラ市や自社店舗等で販売)
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内事業者と都内の販売業者との仲介をすることにより、地元農産物の販路開拓を行った。(地元農産物:イチジク、子メロン外 20 品目)



次世代型農業を行う企業の誘致



高校生との協働による
商品開発

施策1-4 産業を担う人材の育成・就労の支援

求職者への支援を行うとともに、若者や女性、障害者、高齢者の働く場の創出と創業・起業しやすい環境づくりを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R1	目標値 R3
女性起業家育成講座受講生による創業・起業件数 (講座受講生の追跡調査による)	4件 (H26)	累計7件 (H27~R1)	累計10件
障害者の福祉施設から一般就労への移行人数 (福祉施設への調査による)	44人 (H22~H26)	累計98人 (H27~R1)	累計140人 (改定前95人)

具体的な取組み

「パートタイマー就職相談面接会」の開催	<p>■市内企業の人材確保を目的に、パート人材を求める企業とパート就職を望む方とのマッチングを行う「パートタイマー就職相談面接会」を開催した。(4回開催、参加企業:延べ66社 参加者:376人)</p>
「転職・再就職相談カフェ」の開催	<p>■正社員を募集している市内企業と、市内外のおおむね40歳までの転職・再就職希望者とのカフェ形式の就職相談会を開催した。(参加者:16人、参加企業:9社)</p>
「いわた・ふくろい就職フェア」の開催	<p>■袋井市、商工会議所及び商工会と共催して、令和2年3月卒業予定の大学生や3年以内の既卒者を対象とした、「いわた・ふくろい就職フェア」を平成31年4月に開催した。 (参加学生:137人、参加企業:109社)</p>
新規 高校生と市内企業との交流授業・見学バスツアーの開催	<p>■企業の人材確保支援及び高校卒業後の市内企業への就職を後押しするため、企業と高校生の交流授業や実際に働いている様子を見学するバスツアーを開催した。 (交流授業 回数:2回、参加企業:12社、参加生徒:77人) (バスツアー 企業:3社 参加生徒:19人)</p>
新規 「企業と大学・専門学校との交流会」の開催	<p>■産業振興フェアinいわたにおいて、企業の人材獲得と新卒学生のUIJターンの促進、留学生の就職支援・就労先の新規開拓を目的とした交流会を開催した。 (参加企業:12社 大学・専門学校:9校)</p>
新規 高齢者の働く場の創出	<p>■市が実施する新たな業務にシルバー人材センターを積極的に活用し、高齢者の働く場の創出を支援した。 (新規発注業務:JR御厨駅清掃作業、JR御厨駅に関する交通量調査、資源ごみ回収ステーション管理業務など)</p> <p>■シルバー人材センターに、ハローワークや市が開催している就職相談会を紹介するなどし、会員募集を支援した。</p>

基本目標 2

移住・定住したくなるまちづくり

【数値目標】

転入者数

基準値	実績値(累計)					目標値
	H26	H27 (H27)	H28 (H27~H28)	H29 (H27~H29)	H30 (H27~H30)	R1 (H27~R1)
0人	△24人 転出超過	372人 転入超過	327人 転入超過	615人 転入超過	1,190人 転入超過	転入者数 1,500人超過 (改定前 350人超過)

令和元年度実施状況・評価

JR 御厨駅の開業、(仮称)磐田市文化会館の整備、今之浦市有地・今之浦公園の一体的整備など、新たな交流と賑わいを生み出すための、様々なハード事業に取り組みました。

また、日本中で盛り上がりを見せた「ラグビーワールドカップ 2019」では参加3カ国の公認チームキャンプ地としての対応を行い、「スポーツのまち磐田」としての魅力をPR することができました。

さらに、移住体験ツアーの実施、磐田市Uターン促進奨学金返済支援制度の継続、中古建物リフォーム制度の拡充など、首都圏を中心とした大学生などの求職者や移住希望者を呼び込む取り組みを行いました。

数値目標である転入者数は、外国人転入者の増加が要因となり、令和元年度は累計で1,190人の転入超過となりました。しかし、日本人に限定すると、特に20代から30代の若い世代が減少傾向にありますので、今後も移住・定住を促進する取組みを続ける必要があります。

今後の課題

- 新型コロナウイルスの影響により各種イベントの延期や中止など、本市の魅力発信の機会が減少している中、SNSなどの情報発信媒体を活用した効果的な取組みが今まで以上に重要になっている。
- (仮称)磐田市文化会館や今之浦市有地・今之浦公園は、イベントや集会の開催など、市民の交流促進やまちの賑わい創出につながる整備後の活用方法を検討する必要がある。



中古建物
リフォーム事業



JR磐田駅でのデジタルサイネージ

施策2-1 「移住定住」と「UIターン」の促進

首都圏等を中心とした大学生などの求職者や移住・定住希望者を呼び込み、就労や移住・定住につなげていきます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R1	目標値 R3
UIターン就職促進事業による市内企業への就職者数 (就職促進事業参加学生への追跡調査による)	—	累計 152 人 (H27～R1)	累計 210 人 (改定前 150 人)

具体的な取組み

移住・定住の促進	<ul style="list-style-type: none"> ■東京や名古屋など、様々な地域で開催された移住セミナーやフェアに参加し、移住に興味のある方の相談に直接対応した。 (参加セミナー等:6回/年)
	<ul style="list-style-type: none"> ■県と西部地域の8市町が「チーム西部」として連携し、首都圏に在住する移住に興味のある方を対象にした移住体験ツアーを開催した。参加者は西部地域内の農業法人や農産物直売所、個人農家などを見学した。 (参加者:7名)
	<ul style="list-style-type: none"> ■市外の方に対して磐田市の魅力を紹介する移住者向けの新たなPR冊子を作成し、静岡県移住相談センター等で配布した。 (制作部数:1,000部)
UIターンの促進	<ul style="list-style-type: none"> ■企業見学会や企業のインターンシップ情報の発信、近隣市や中京圏大学と連携した業界研究会を開催し、学生と企業とのマッチングを支援した。 (企業見学:1回、業界研究会:4回)
	<ul style="list-style-type: none"> ■大学進学のため県外に転出した若者のUターン就職を促進し、定住人口の増加を図るため、昨年度に続き「磐田市Uターン促進奨学金返済支援制度」を実施した。 (申請者:101名 補助額:7,544千円)
新規 「中古建物リフォーム事業」の 拡充	<ul style="list-style-type: none"> ■新たな定住者を確保し、健全な地域コミュニティの保持及び空き家の有効活用を図るため、中古住宅を購入し、リフォームを行う者に対し助成した。また、令和元年度からは対象建物の範囲を広げ、店舗・事務所など住宅以外の建物を居住用にリフォームする場合も対象とした。 (補助件数:29件、うち市外:5件 市内:24件 移住者数:18人)
新規 JR御厨駅の開業	<ul style="list-style-type: none"> ■JR御厨駅の開業に向け、駅舎・自由通路の内装工事、ホーム舗装・設備工事や周辺の施設整備などを実施した。 (令和2年3月14日開業)

施策 2-2 磐田のブランド力の強化とシティプロモーションの推進

マスメディアやウェブサイトなどによる魅力の発信や知名度の向上により、「訪れたい」「住みたい」と思われるよう、誇りと愛着の醸成を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R1	目標値 R3
地域ブランド調査魅力度全国ランキング	430 位 (H26)	483 位	350 位内

具体的な取組み

SNSを活用したシティプロモーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ インスタグラムやフェイスブックなどの SNS を活用して市内外に市の魅力発信し、フォロワー数の拡大を図った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ インスタグラム (フォロワー数:5,247 人) ・ ユーチューブ (チャンネル登録者:1,760 人) ・ ツイッター (フォロワー数:4,050 人) ・ フェイスブック (フォロワー数:1,216 人)
新規 デジタルサイネージによる魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> ■ JR 磐田駅南北自由通路やJR御厨駅に大型モニターを設置し、駅利用者に市の魅力を動画などで PR した。 ■ JR 東海道新幹線の東京・名古屋・新大阪駅構内に設置されたモニターに市の魅力を PR する動画を放映した。 (放映期間:令和元年6月1日~6月30日)
しっぺいを活用した魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民に愛されるキャラクターしっぺいを使って、本市の魅力を市内外に発信した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内全幼稚園・保育園・こども園への訪問 ・ 市内中学校の「朝のあいさつ運動」に参加 ・ 製品だけでなくチラシや看板など 335 件の使用承諾
「ジュビロ磐田メモリアルマラソン」の開催支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本市のスポーツ振興や知名度向上を図るため、22 回目となる「ジュビロ磐田メモリアルマラソン」開催を支援した。 (エントリー9,395 件、県外 1,543 件、市外 5,631 件、市内 2,221 件)
新規 ラグビーワールドカップ 2019 の公認チームキャンプ地としての対応	<ul style="list-style-type: none"> ■ ラグビーワールドカップ 2019 の公認チームキャンプ地として、掛川市と合同で参加3カ国のチーム対応を行った。 (アイルランド、ロシア、オーストラリア)
文化芸術活動の育成支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 子どもや市民が参加できる場を提供し、文化芸術活動の育成支援を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ダンスエボリューション(出演者:413 人、観覧者:1,516 人) ・ いわた de 音楽フェスタ(演奏者:898 人、観覧者 3,167 人) ・ 自由演奏会(演奏者:285 人、観覧者 323 人)
ふるさと納税の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市ホームページのほか民間のふるさと納税関連サイト等において当市の取組みを発信し市のPRを図った。 (寄附件数:14,977 件、寄附金額:425,948,005 円)

※デジタルサイネージ…ディスプレイなどに映像や文字を表示する広告媒体。

施策 2-3 新たな交流・集客の推進

市が持つ様々な魅力を活用し新たな交流を生み出すとともに、にぎわいづくりを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R1	目標値 R3
観光交流客数 (県観光交流客数調査による)	357 万人	360 万人 ※	395 万人

※調査時点での最新数値

具体的な取組み

新規 (仮称) 磐田市文化会館の整備工 事の着手と周辺施設の賑わいつ くり	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和4年開館に向けて実施設計を完成するとともに、造成及び建設工事に着手した。 ■ (仮称)磐田市文化会館の整備により、市内の「文化ゾーン」として、さらに多くの市民が集まり、賑わいが創出されることを期待し、新造形創造館内に新たな飲食店を誘致した。
新規 今之浦市有地・今之浦公園の整備	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「まち」の活性化につながる拠点として今之浦市有地・今之浦公園を一体的に整備するため、パブリックコメントや意見交換会でいただいた市民意見を参考に基本設計をとりまとめた。
新規 市民文化会館跡地の利活用懇話 会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新たな交流、賑わいづくりの拠点として、市民文化会館及び文化振興センター跡地の利活用について懇話会を開催し、市民の皆様からご意見、ご提案をいただいた。
磐田駅前の賑わいづくり	<ul style="list-style-type: none"> ■ 駅前ジュピロードの賑わいを創出するため、JR磐田駅北側の「ジュピロード」を歩行者天国にし、「みんなで軽トラ市 いわた☆駅前楽市」の開催を支援した。 また、磐田駅北口広場では、移動販売車による飲食の提供や映画上映、イルミネーションなどによる“にぎわい創出イベント”の開催を支援した。 (軽トラ市:年3回開催 来場者数:延べ 27,000 人) (磐田駅北広場:使用申請 年間 85 回)
個人商店に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市民に個人商店の魅力を知ってもらうため、商店主が講座を企画し、講師となることにより、プロの専門知識やコツを受講者に無料で教える「磐田まちめぐりゼミナール」を開催した。 (講座回数:84 回 受講者数:646 人)



今之浦市有地・今之浦公園の整備



(仮称) 磐田市文化会館の整備

基本目標3

若い世代が家族を増やしたくなるまちづくり

【数値目標】

合計特殊出生率

基準値	実績値					目標値
H25	H27 (H26)	H28 (H27)	H29 (H28)	H30 (H29)	R1 (H30)	R3
1.56	1.50	1.47	1.58	1.56	1.46	1.60

令和元年度実施状況・評価

幼児教育・保育の無償化やこども医療費助成制度の継続、産後うつなどの予防を目的とした産婦健診・産後ケアの導入により、安心して妊娠・出産し、子育てしやすい環境を整えました。

また、民間こども園の新設等に係る施設整備や小規模保育園の認可に伴う改修工事に対して支援を行うことで、増加する保育ニーズに対応した受け入れ体制の充実を図りました。

しかし、数値目標である合計特殊出生率は、昨年の 1.56 から 1.46 に大きく低下しており、今後も妊娠から出産、子育てまでサポートのさらなる充実に取り組む必要があります。

今後の課題

- 依然として保育需要が高い中、待機児童数ゼロを目指し、さらなる定員の拡大とともに、保育士の確保に取り組む必要がある。
- 様々な支援制度や相談体制がより多くの市民に利用されるよう、周知方法を再検討する必要がある。



ひと・ほんの庭 にこっと



中学生スタートアップ応援事業
(応援メッセージ)

施策3-1 仕事と子育ての両立支援

男性も女性も子育てに向き合えるよう、仕事と家庭生活を両立できるような環境の整備を進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R1	目標値 R3
待機児童数ゼロの継続	待機児童 ゼロ	5人	待機児童 ゼロ
父母いずれか若しくは双方の育児休業取得率 (乳幼児健診時のアンケート調査による)	70.0% (H25)	85.8%	86.0%以上 (改定前 80%以上)

具体的な取組み

こども園、小規模保育所の施設整備への補助	<p>■保育ニーズに対応した受け入れ体制の充実を図るため、こども園及び小規模保育所の新設等に係る施設整備費の補助を実施した (2園実施)</p>
保育所等定員枠の拡大	<p>■新たな民間保育所及び小規模保育所の開園支援、既存民間保育所の施設改修支援により、定員枠の拡大に取り組んだ。 (前年度比 64 人の定員増加)</p>
新規 幼児教育・保育の無償化	<p>■0～2歳児の住民税非課税世帯の子ども及び3～5歳児のすべての子どもを対象に、幼稚園、保育所、認定こども園等の利用料金を無償化した。</p>
「にこっとハローワーク」の実施	<p>■主に子育て世代の就労を支援するため、ハローワーク磐田と連携し、ひと・ほんの庭 にこっとにおいて、職業相談や紹介を行う「にこっとハローワーク」を実施した。 (開催回数:87回 相談件数:261件)</p>
「中学生スタートアップ応援事業」の実施	<p>■人生の新たなステージへと進む中学校入学を迎える児童の門出を応援するとともに、子育て家庭の経済的負担を軽減するため、児童一人当たり30,000円分の商品券を支給し、制服などの購入費用を支援した。 (申請者数:1,656人)</p>
男女共同参画の啓発	<p>■女性の社会活躍を推進するため、浜松いわた信用金庫ワーキングレadiesクラブと共催で「人脈をつくるカラーコーディネート」講演会を開催した。 (参加者:80人)</p>

施策3-2 結婚・妊娠・出産及び子どもの成長・発達支援の充実

これから結婚し、家庭を持ち、子どもを産み育てる人が、その夢をかなえることができるよう支援するとともに、すべての子どもが健やかに成長するよう支援します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R1	目標値 R3
これからも磐田市で子育てをしたいと思う親の割合 (乳幼児健診時のアンケート調査による)	66.8% (H25)	97.2% (R1)	98.0%
婚姻数 (県人口動態統計調査による)	861件 (H25)	770件 (H29)※	900件

※調査時点での最新数値

具体的な取組み

磐田・めぐりあい事業の実施	<p>■磐田・めぐりあい事業(天竜浜名湖鉄道株式会社への業務委託による婚活事業)を開催した。 参加者:延べ62名(男性35名 女性27名) 成婚数:3組 ※成婚数は過去に本事業に参加し、昨年度成婚した組数</p>
新規 産婦健診・産後ケアの導入	<p>■産後うつを予防し、安心して育児ができるようにするため、産婦健診や産後ケアなど出産直後の母子に対する支援体制を強化した。 (産婦健診受診者数:931人、産後ケア利用者数:4人)</p>
新規 特別な理由による予防接種再接種費用補助制度の創設	<p>■骨髄移植などにより、接種済みの予防接種の予防効果が期待できないと医師に判断された場合において、再接種の際の経済的な負担を軽減するため、接種費用の補助を行う制度を創設した。</p>
こども医療費助成制度の継続	<p>■高校生年代までのこどもに対して医療費の助成を行った。 ・中学生までの自己負担:無料 ・高校生年代の自己負担:通院1回、入院500円/日 (受給者数:27,676人、支給件数:370,410件)</p>
ひとり親家庭の支援	<p>■ひとり親家庭への支援を実施した。 ・母子家庭等医療費への助成588人 ・母子家庭等自立支援への給付6件 ・ひとり親家庭子育てサポート支給件数11件</p>
子育て相談体制の確立	<p>■産前6週間から出産後120日までの子を持つ母親が安心して子育てができるよう、子育て相談員派遣事業を実施した。 (申請者108人 派遣回数1,289回)</p> <p>■家庭での生活やしつけ、心身の発達、虐待や養育問題など、こどもに関する様々な悩みの相談に対応するこども相談ダイヤル相談事業を実施した。 (対応件数:207件)</p>
発達障害児童に対する支援	<p>■発達に遅れや心配のある子どもや保護者に対して、磐田市発達支援センター「はあと」において、様々な支援を実施した。 (通園事業:612件、相談事業:2,426件、連携支援1,812件)</p>

基本目標4

子どもたちが健やかに成長するまちづくり

【数値目標】

学校に対する満足度

基準値	実績値					目標値
	H26	H27	H28	H29	H30	R1
—	87.2%	82.1%	88.2%	87.2%	88.6%	90.0%

令和元年度実施状況・評価

新時代の新たな学校づくりのモデルとなる、ながふじ学府一体校の建設工事が令和3年4月の開校を目指してスタートし、向陽学府においては、地元自治会の方々に学府一体校についての理解を深めていただくための学習会を開催しました。

また、公立小中学校の普通教室へのエアコン設置や洋式トイレへの暖房便座の設置により、子どもの教育環境の改善に取り組みました。

放課後児童クラブは、特に需要が増加する夏休み期間中の対策として、静岡産業大学との連携による臨時クラブを大学構内に開設し、運営しました。

そのほか、小学生によるジュビロ磐田ホームゲーム一斉観戦や小中学生による広島平和記念式典への参加、中学生の海外派遣研修を実施したほか、将来のまちづくりを担う人材を育成するため、市内の高等学校に通う生徒を対象にヤング草莽塾を引き続き行い、ふるさとへの誇り・愛着の醸成を図りました。

このような取組みの結果、数値目標である学校に対する満足度やその他の KPI は上昇する傾向にありますので、引き続き、ふるさとへの誇りと愛情を持ち、地域づくりに取り組む人材育成を行うとともに、帰ってきたいくなるまちづくりに取り組む必要があります。

今後の課題

- 学校施設の多くは建設後 30 年以上が経過し、老朽化による様々な影響が懸念されているため、計画的かつ適切な維持管理を進め、長寿命化に努めていく必要がある。
- 令和元年度の「学校卒業後に磐田市への就職を希望する高校生の割合」は 40.5%であり、上昇傾向にあるが、さらに本市への愛着を深めるための取組みを継続していく必要がある。

施策4-1 特色ある教育の推進

子どもを学ばせたいくなるような魅力ある教育を推進するとともに、「地域とともにある学校づくり」を進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R1	目標値 R3
英語への興味・関心・意欲のある児童生徒の割合 (市独自のアンケート調査による)	70.18% (H26)	80.5%	88.0%以上
地域や社会への興味・関心のある児童生徒の割合 (全国学力学習状況調査による)	60.9% (H27)	72.5%	75.0% (改定前 70%)

具体的な取組み

新規 ながふじ学府一体校の建設工事に着手	■平成30年度に策定した「ながふじ学府一体校等実施設計」に基づき、建設工事に着手した。 (令和3年4月開校予定)
新規 向陽学府の新たな学校づくりに関する学習会	■地元自治会を対象とした学習会を開催し、学府一体校について理解を深めていただくとともに、ワークショップ形式で意見交換を実施した。 (3回開催)
新規 小中学校のエアコン設置	■小中学校の教育環境の改善を図るため、普通教室へのエアコン設置を完了した。 (整備した教室:公立小・中学校の普通教室 30校 514室)
新規 子どものトイレ環境の改善	■幼稚園、保育園、こども園、小学校及び中学校の洋式トイレに暖房便座を設置し、トイレ環境の改善を図った。 (公立園:120箇所 小学校:313箇所 中学校:125箇所)
教育支援員の配置	■通常学級や特別支援学級に対して、担任とともに特別に支援を要する児童生徒をサポートする教育支援員を配置した。 (小学校 62名 中学校 23名) さらに介助が必要な児童が在籍する学校に教育介助員を配置した。 (小学校 2名)
放課後児童クラブの定員拡大	■放課後児童クラブの利用者増加への対応として、通常時は全体で20名の定員枠を増加、特に需要が増加する夏休み期間には14クラブを臨時に開設した。また、初の試みとして、そのうち1クラブを静岡産業大学構内に開設し、地域資源を活用した拠点型クラブとして運営した。
外国語指導助手の派遣	■幼稚園・小学校・中学校に外国語指導助手(ALT)を派遣し、英語を使ったコミュニケーション能力の向上を図った。また、ALTが各中学校を訪問して、生徒の英会話の力を評価する「S.P.E.A.K プロジェクト」を実施した。 (外国語指導助手:18人)

施策4-2 ふるさとへの誇りと愛情を持った子どもの育成

次代を担う子どもたちにふるさとへの誇りと愛情を持ってもらい、より良い地域づくりに取り組もうとする人材を育成します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R1	目標値 R3
学校卒業後磐田市に就職を希望する高校生の割合(市独自の高校生へのアンケート調査による)	34.0% (H27)	40.5%	50.0%

具体的な取組み

中学生の海外派遣研修の実施	<p>■これからのまちづくりを担う中学生の幅広い視野を養成し、地域に対する理解を深めてもらう中学生海外派遣事業を実施した。(行き先:ベトナム社会主義共和国、参加者:11人)・ヤマハモーターベトナムハノイ工場の見学及び社員との交流、現地高校生徒の交流・ホームステイ等</p>
小中学生の広島平和記念式典への派遣	<p>■原爆資料館の見学、平和記念式典への参加で、平和の尊さ・有り難さを体験する広島平和記念式典小中学生派遣事業を実施した。 (令和元年8月6日実施 参加者:市内の小中学校代表 33人)</p>
ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦の実施	<p>■郷土を誇りに思う気持ちの醸成を図るため、ジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦を実施した。 (小学生約 3,100 人が参加)</p>
「磐田スポーツ部活」の実施	<p>■学校に希望する運動部活がない生徒に対し活動の場を提供する磐田スポーツ部活を実施した。 (陸上競技部:55名 ラグビー部 22名)</p>
「ヤング草莽塾」の実施	<p>■高校生の柔軟な発想を市政に生かすとともに、将来のまちづくりを担う人材を育成するため、行政課題の解決策等について研究する「ヤング草莽塾」を実施した。 (参加者:市内6校、11グループ 65名) 【提案の実現】 ○今之浦公園の整備に関する提案(北高、農高) ○桶ヶ沼特製リーフレットの作成(東高)</p>



桶ヶ沼特製リーフレット



ジュビロ磐田ホームゲーム
小学生一斉観戦

【数値目標】

「磐田市が住みやすい」と答える市民の割合

基準値	実績値	目標値
H26	R1	R3
87.9% (H26)	—	90.0%以上

令和元年度実施状況・評価

安全で安心なまちづくりを進めるため、防潮堤を竜洋海洋公園工区及び海岸防災林工区で 510m、海拔 14mの完成形は県事業と合わせて総延長 1,994mまで整備するとともに、避難所の災害対策として、大規模停電発生時に対応するため非常用電源装置やインバータ式発電機の設置、生活用水確保のための井戸の設置などに取り組みました。

また、子どもから若者までのあらゆる相談に対応するための相談窓口として「子ども・若者相談センター」の開設や障害者相談支援センターの増設、認知症ハンドブックのリニューアル、デマンド型タクシーの利便性向上など、誰もが暮らしやすさを実感できるためのまちづくりを推進しました。

さらに、地域づくり応援一括交付金の交付などにより、交流センターを拠点とした地域活動を支援し、地域コミュニティの活性化を図りました。

今後も、防災対策や都市基盤の整備、地域の特性を生かした地域づくりを促進することで、「住んで良かった」と思えるまちづくりを進めます。

今後の課題

■ 地域活動を停滞なく円滑に進めるため、地域づくり協議会への支援を継続し、地域活動の担い手の育成や確保を進める必要がある。



救助工作車



災害時のドローンの活用

施策5-1 安全で安心なまちづくり

防災・減災対策を市民と連携して進めるとともに、消防・防災体制の強化を図り、災害に強い安全で安心な地域をつくりまします。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R1	目標値 R3
緊急輸送路上の橋梁の耐震化率(橋長 15m以上)	70.6% (H26)	88.2%	94.1%
犯罪発生件数 (磐田警察署の犯罪白書より)	1,044 件 (H26)	750 件	700 件以下 (改定前 800 件)

具体的な取組み

新規 避難所の災害対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■大規模停電発生時の対策として、避難所へ非常用電源装置やインバータ式発電機を整備した。 (非常用電源装置:5 避難所、インバータ式発電機 7 避難所) ■大規模災害時に避難所での生活用水を確保するため、7施設に井戸を設置した。 (磐田南小、福田小、豊浜小、竜洋北小、豊田南小、青城小、豊岡南小)
新規 洪水ハザードマップの作成	<ul style="list-style-type: none"> ■河川の氾濫による洪水、大雨によるがけ崩れなどの災害から、迅速かつ安全に避難し、身を守ることを目的として、天竜川と太田川水系の最大規模降雨を想定した洪水ハザードマップを作成した。
救急救助体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ■多様化する災害や事故等に対応するため、最新の資機材を装備した救助工作車を1台更新した。
新規 災害時のドローンの活用	<ul style="list-style-type: none"> ■災害発生後、すぐに災害状況を把握し、迅速かつ的確な状況判断を可能とするため、災害対策本部情報収集班に「ドローン隊」を配備した。
防潮堤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ■竜洋海洋公園工区及び海岸防災林工区で延長 510mの防潮堤を整備した。
木造住宅の耐震化の支援	<ul style="list-style-type: none"> ■木造住宅の耐震化を推進した。 (耐震診断:96 件 耐震補強計画:28 件 補強工事:18 件)
農業用ため池の震災対策	<ul style="list-style-type: none"> ■農業用ため池が地震等で損壊することによって、人命や農地・農業施設等に被害を与えることを防ぐため、施設の耐震対策を実施した。
橋梁の補修・長寿命化	<ul style="list-style-type: none"> ■橋梁の長寿命化を図るため、修繕工事を実施するとともに、東名高速道路の跨道橋3橋及び一般橋梁 296 橋の定期点検を実施した。

施策5-2 だれもが暮らしやすいまちづくり

子どもや女性、高齢者、障害者など、すべての市民が住みやすいと思えるようなまちづくりを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R1	目標値 R3
お達者な人(65歳以上の要介護認定なし+要介護1以下)の割合	92.0% (H26)	91.85%	93.0%以上 (改定前 92%以上)

具体的な取組み

新規 こども・若者相談センターの開設	<ul style="list-style-type: none"> ■こどもから若者までのあらゆる相談に対応するため、総合健康福祉会館(iプラザ)内に相談員が常駐する「こども・若者相談センター」を開設し、相談窓口体制の充実を図った。
障害者相談支援センターの増設	<ul style="list-style-type: none"> ■就労や自立などに問題や悩みを抱える障がいのある方への相談支援を強化するため、南部地域に地域包括支援センターと連携する障害者相談支援センターを新たに設置した。
認知症ハンドブックのリニューアル	<ul style="list-style-type: none"> ■市民が認知症を正しく理解し、認知症になっても住み慣れた地域で、安心して暮らしていくため、認知症に対する情報や支援体制などを掲載した「認知症ハンドブック」を刷新・作成した。
新規 風しんの抗体検査・予防接種の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■風しんの抗体保有率が低い世代の男性に対する抗体検査及び予防接種の費用を無料化することにより、感染拡大防止を図った。 (抗体検査:2,547人 予防接種:873人)
新規 プレミアム付商品券の発行	<ul style="list-style-type: none"> ■消費税率の引上げによる影響を緩和し、地域における消費を喚起・下支えするため、低所得者や子育て世帯(0~2歳児)を対象に、プレミアム付商品券を発行した。 (購入引換券発行者数:13,783人)
デマンド型乗合タクシー「お助け号」の利便性向上	<ul style="list-style-type: none"> ■デマンド型乗合タクシー「お助け号」の利便性を向上するため、指定施設を追加するとともに、「住民周知・利用促進検討会」を全8路線で開催し、地域住民の代表者等との意見交換を行った。 (お助け号利用者数:29,095人)



こども・若者相談センターの開設



認知症ハンドブックのリニューアル

施策5-3 地域コミュニティの活性化

市民一人ひとりが、地域の課題解決に向けて、主体的に取り組むことができる環境を整備し、地域コミュニティの活性化を促進します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績 R1	目標値 R3
自治会加入率(世帯)の維持	83.16% (H27)	81.64%	83.16%
交流センター利用者数	603,624 人 (H26)	618,105 人	650,000 人

具体的な取組み

新規 (仮称) 磐田市自治基本条例制定の検討に着手	■ 地域主体のまちづくりをさらに推進するため、条例の制定に向けた庁内検討委員会を開始した。
地域の主体的な取組みを支援	■ 地域課題の解決や特色を生かした魅力ある地域づくりを行う地域づくり協議会に対して、地域づくり応援一括交付金を交付。また、高齢者福祉事業を対象経費に追加し、地域の自主性を生かした主体的な活動を支援した。
交流センター講座の開催	■ 市民に多様な学習機会の場を提供するため、交流センターにおいて各種講座を開催した。 (講座数:462 講座 参加者数:12,447 人)
生涯学習情報誌の発行	■ 地域のイベントや活動の周知を図るため、生涯学習情報誌を発行した。 ・「学びの庭」交流センター等で開催する講座を紹介 ・「学びの師」生涯学習指導者の指導内容を掲載 ・「学びの友」スポーツ・文化・芸術などのグループ活動を掲載



生涯学習情報誌の発行



交流センターみんなでラジオ体操

5 数値目標及び重要業績評価指標の達成状況

基本目標、施策	数値目標、重要業績評価指標(KPI)	基準数値	H27	H28	H29	H30	R1	目標値(R3)
1 みんなが活躍できるまちづくり	市独自調査による新規雇用者数(累計)	-	356人	698人	1,072人	1,513人	1,960人	2,700人(累計) (改定前1,500人)
1-1 中小企業等の競争力の強化	産業展示会等出展支援事業による商談成立件数(累計)	15件	25件	53件	81件	129件	157件	230件(累計) (改定前100件)
	中小企業の製造品出荷額等	4,874億円	5,019億円 (H26)	5,019億円 (H26)	5,019億円 (H26)	4,863億円 (H28)※	4,798億円 (H29)	4,900億円以上
1-2 企業誘致の推進と創業・起業支援	新たな企業立地件数(1,000㎡以上)(太陽光発電事業を除く)(累計)	-	2件	9件	19件	24件	30件	38件(累計) (改定前20件)
	創業支援等事業計画に基づく新たな創業・起業件数	-	58件/年	109件/年	131件/年	82件/年	93件/年	130件/年
1-3 元気な農林水産業の育成	異業種からの新規農業参入企業数	8件	9件	9件	10件	14件	18件	20件(累計) (改定前13件)
	農業委員会調査による新規就農者数(45歳未満)(累計)	5人	11人	17人	24人	27人	28人	34人(累計) (改定前30人)
1-4 産業を担う人材の育成・就労の支援	女性起業家育成講座受講生による創業・起業件数(累計)	4件	2件	4件	4件	5件	7件	10件(累計)
	障害者の福祉施設から一般就労への移行人数(累計)	44人	22人	42人	61人	81人	98人	140人(累計) (改定前95人)
2 移住・定住したくなるまちづくり	転入者数(累計)	0人	△24人	372人	327人	615人	1,190人	1,500人超過(累計) (改定前350人超過)
2-1 「移住定住」と「Uターン」の促進	Uターン就職促進事業による市内企業への就職者数(累計)	-	27人	65人	98人	128人	152人	210人(累計) (改定前150人)
2-2 磐田のブランド力の強化とシティプロモーションの推進	地域ブランド調査魅力度全国ランキング	430位	398位	513位	486位	600位	483位	350位以内
2-3 新たな交流・集客の推進	観光交流客数	357万人	357万人	377万人	393万人	376万人	360万人	395万人
3 若い世代が家族を増やしたくなるまちづくり	合計特殊出生率	1.56	1.50 (H26)	1.47 (H27)	1.58 (H28)	1.56 (H29)	1.46 (H30)	1.60
3-1 仕事と子育ての両立支援	待機児童数ゼロの継続	0人	0人	0人	0人	6人	5人	0人
	父母いずれか若しくは双方の育児休業取得率	70.0%	-	83.8%	82.9%	82.7%	85.80%	86.0%以上 (改定前80.0%以上)
3-2 結婚・妊娠・出産及び子どもの成長・発達支援の充実	これからも磐田市で子育てをしたいと思う親の割合	66.8%	-	96.9%	97.2%	97.0%	97.2%	98.0%
	婚姻数	861件 (H25)	847件 (H26)	808件 (H27)	777件 (H28)	770件 (H29)	※未発表 (H30)	900件
4 子どもたちが健やかに成長するまちづくり	学校に対する満足度(児童生徒・保護者)	-	87.2%	82.1%	88.2%	87.2%	88.60%	90.0%
4-1 特色ある教育の推進	英語への興味・関心・意欲のある児童生徒の割合	70.18%	78.5%	79.5%	80.4%	79.4%	80.50%	88.0%以上
	地域や社会への興味・関心のある児童生徒の割合	60.9%	60.9%	61.5%	59.4%	65.2%	72.50%	75.0% (改定前70.0%)
4-2 ふるさとへの誇りと愛情を持った子どもの育成	学校卒業後磐田市に就職を希望する高校生の割合	34.0%	34.0%	37.2%	39.3%	37.4%	40.5%	50.0%
5 安全・安心と住みよさを実感できるまちづくり	「磐田市が住みやすい」と答える市民の割合 (「磐田市に住み続けたい」と答える市民の割合)	-	87.9%	-	-	-	-	90.0%以上
5-1 安全で安心なまちづくり	緊急輸送路上の橋梁の耐震化率(橋長15m以上)	70.6%	82.4%	88.2%	88.2%	88.2%	88.2%	94.1%
	犯罪発生件数	1,044件	1,014件	1,007件	980件	912件	750件	700件以下 (改定前800件)
5-2 だれもが暮らしやすいまちづくり	お達者な人(65歳以上の要介護認定なし+要介護1以下)の割合	92.0%	92.28%	92.19%	92.20%	91.90%	91.85%	93.0%以上 (改定前92.0%以上)
5-3 地域コミュニティの活性化	自治会加入率(世帯)の維持	83.16%	83.16%	82.51%	81.42%	82.72%	81.64%	83.16%
	交流センター利用者数	603,624人	633,352人	643,172人	642,978人	631,370人	618,105人	650,000人

※調査時点の最新数値